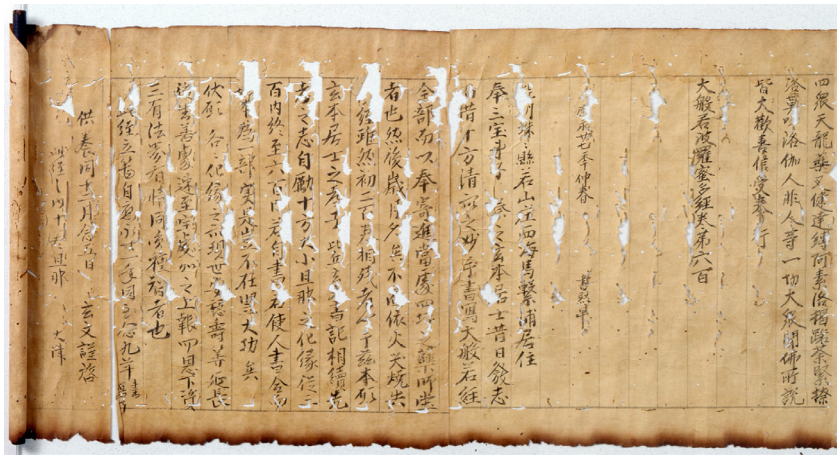
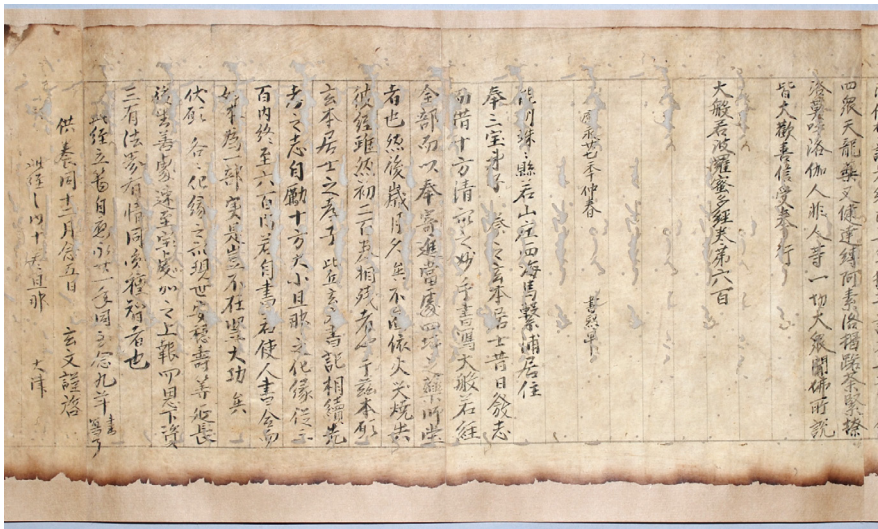


修復前



修復後



有形文化財（典籍）

5. 紙本墨書大般若波羅蜜多經 494 卷

■指定年月日 昭和 58 年 1 月 25 日 (1983) ■所有者 個人  
 ■所在地 馬縹町

若山莊馬繫浦（現在の馬縹町）の四坪薬師に納められていた大般若經 600 卷の一部である。この写經は 2 度の火災に遭ったが、494 卷分が残っている。全巻とも卷子装、用紙は黄楮紙と雁皮紙。紙の幅は 26.3～26.9cm、1 枚の長さ 48～52cm で、16～18 枚つないである。1 枚の紙に 26～28 行、1 行は 17 字。

この写經は、奥書を見ると、馬繫浦の秦玄本を中心として、玄海・定阿・定西・玄遠らが願主となって、貞治 2 年（1363）に書写をはじめ、永和 4 年（1378）に完成して、四坪薬師に寄進したことが分かる。

その幾十年かの後、火事のため、201 卷から

600 卷までを失った。それで、応永 21 年（1414）玄本の子玄文が、不足分の補充を發願し、同 29 年に完成したものと記されている。

この写經は、装飾が簡略である上に、火災にあい、虫や鼠の害を受け、比較的状态の良いものでも写真（上段）のとおりであったため、これまでに 69 卷を修復した。中世の能登における仏教文化史探究のうえから、極めて重要な資料である。